

各 位

株式会社カナモト  
(9678 東証第 1 部 札証)

取締役執行役員経理部長 卯辰 伸 人

<資料に関するお問合せ先>

社長室 広報担当課長 高 山 雄 一

電話:011-209-1631

## 平成 21 年 10 月期第 2 四半期累計期間及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

建機レンタルのカナモト（代表取締役社長：金本 寛中 本社：札幌市）は、平成 21 年 3 月 9 日に発表いたしました平成 21 年 10 月期第 2 四半期累計期間（平成 20 年 11 月 1 日～平成 21 年 4 月 30 日）及び平成 21 年 10 月期通期（平成 20 年 11 月 1 日～平成 21 年 10 月 31 日）の、連結・個別のそれぞれの業績予想について、下記のとおり修正することといたしましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 連結業績予想数値の修正

(1)平成 21 年 10 月期 第 2 四半期累計期間連結業績予想（平成 20 年 11 月 1 日～平成 21 年 4 月 30 日）

（金額の単位：百万円）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四 半 期 純 利 益	1 株 あ た り 四 半 期 純 利 益
前 回 発 表 値 (A)	32,300	780	580	△130	△3.96円
今 回 修 正 予 想 (B)	32,550	920	790	△150	△4.57円
増 減 額 (B-A)	250	140	210	△20	—
増 減 率 (%)	0.8%	17.9%	36.2%	—	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成20年10月期第2四半期)	37,236	2,918	2,833	1,476	44.97円

(2)平成 21 年 10 月期 通期連結業績予想（平成 20 年 11 月 1 日 ～ 平成 21 年 10 月 31 日）

（金額の単位：百万円）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 あ た り 当 期 純 利 益
前 回 発 表 値 (A)	63,900	510	90	△800	△24.36円
今 回 修 正 予 想 (B)	64,850	320	40	△990	△30.15円
増 減 額 (B-A)	950	△190	△50	△190	—
増 減 率 (%)	1.5%	△37.3%	△55.6%	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成20年10月期)	69,411	2,227	2,028	644	19.61円

（次頁に続く）

## 2. 個別業績予想数値の修正

### (1)平成 21 年 10 月期 第 2 四半期累計期間個別業績予想 (平成 20 年 11 月 1 日～平成 21 年 4 月 30 日)

(金額の単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株あたり 四半期純利益
前回発表値 (A)	27,200	540	410	△230	△7.00円
今回修正予想 (B)	27,350	630	540	△320	△9.74円
増減額 (B-A)	150	90	130	△90	—
増減率 (%)	0.6%	16.7%	31.7%	—	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成20年10月期第2四半期)	32,127	2,782	2,734	1,435	43.70円

### (2)平成 21 年 10 月期 通期個別業績予想 (平成 20 年 11 月 1 日～平成 21 年 10 月 31 日)

(金額の単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株あたり 当期純利益
前回発表値 (A)	54,600	330	50	△720	△21.92円
今回修正予想 (B)	54,850	470	240	△730	△22.23円
増減額 (B-A)	250	140	190	△10	—
増減率 (%)	0.5%	42.4%	380.0%	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成20年10月期)	60,473	2,461	2,369	183	5.59円

## 3. 修正の理由

### 〔平成21年10月期 第2四半期累計期間の業績予想〕

当社の第2四半期までの経済環境は、大企業の在庫調整が進んだことと相まって、個人消費にターゲットを絞った景気浮揚策が徐々に効果を表しており、一部に明るさが見えてきております。しかしながら、雇用状況や民間設備投資の回復までには至っておらず、GDPも過去最悪の成長率を記録するなど、国内景気は一段と悪化しました。特に建設業界にあっては、有力地場業者や住宅メーカー等の倒産が未だ相次いでいるほか、これまで唯一堅調であった首都圏の建設投資にも停滞感がでてきており、極めて厳しい経営環境が続いております。

建機レンタルは、絶対的な建設需要の減少から各地で競争が激化しており、また需給バランスが崩れている機種を中心に貸出単価が下落傾向にあります。以上の状況は、当社と同様に連結子会社の業績にも大きく影響がでております。当社グループでは各地域でシェアを伸ばさせているものの、売上は3月9日発表の修正業績予想に対し僅かながらの上回りに止まる見通しとなりました。

また、利益に関しては、レンタル原価の逓減効果もあり営業利益、経常利益ともに修正業績予想を上回る見込みにあります。一方、第2四半期においても有価証券評価損を特別損失に計上したこともあり、残念ながら最終利益は純損失の計上となる見込みです。以上から中間業績(第2四半期累計業績)予想を修正いたします。

### 〔平成21年10月期 通期の業績予想〕

昨年度の一次、二次補正予算、そして新年度予算と、内需拡大策が矢継ぎ早に打ち出されましたが、これら公共事業が本格化するのには第4四半期後半に入ってからと予想されます。また、大型民間設備投資は未だ先の見えない状況が続いていることから、全国的に建設需要の回復は多くを見込めないものと思われれます。事業環境の厳しさは当期末まで続くものと判断されることから期末業績予想も合わせて修正いたします。

## 4. その他

中間配当につきましては、当初計画どおり1株につき10円(普通配当)を予定しますが、期末配当につきましては、今後の事業環境の展開、それに伴う業績進展状況を考慮して判断させていただきたく考えております。

また、この業績予想については、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の経済環境予想等に基づいて予測し作成したものであり、リスクや不確定要素が含まれております。従いまして、実際の業績は、当社を取り巻く経済情勢、市場動向、競合状況等、今後様々な要因によって、記載の金額の予想数値と異なる可能性がありますので、ご承知おきください。平成21年10月期第2四半期決算短信は6月5日に発表いたします。

以上